

# 第157回 教育研究評議会 議事録

日 時 平成30年 2月 8日 (木)  
13時30分～14時55分  
場 所 事務局第一会議室 (本部棟3階)

## 出席者

学長 (議長)	長谷部
理事	大門, 森下, 中村, 箱田
副学長	高木
教育学部	杉山, 加藤, 室井
経済学部	中村, 永井
経営学部	原, 谷地
理工学部	羽深
都市科学部	齊藤
国際社会科学研究院	泉, 佐藤, 荒木
工学研究院	渡邊, 新井, 高田
環境情報研究院	根上, 大谷, 金子
都市イノベーション研究院	佐土原, 白水, 山田
教養教育主事	上ノ山
附属図書館長	志田

## 議 事

### I 議事録確認

第156回議事録 (案) (艸1) について, 原案のとおり確認した。

### II 報告事項

#### 1. 議長報告

議長から, 次の事項について報告があった。

- (1) 国立大学協会 国立大学の教育研究活性化を推進する人事給与マネジメント改革WG 出席 (1/19)
- (2) 大学基準協会 平成29年度第5回学長セミナー 出席 (1/20)
- (3) 「藤嶋 昭 名誉博士」文化勲章受章記念講演及び祝賀会 【延期 2/20】 (1/22)  
《資料2-1》
- (4) 国立大学協会 平成29年度臨時総会 出席 (1/26) 《資料2-2》
- (5) 東京理科大学「藤嶋 昭 学長」文化勲章受章祝賀会 出席 (1/27)
- (6) 友松会新年会 出席 (1/27)
- (7) IAS (先端科学高等研究院) Dissemination Conference 出席 (1/30)
- (8) 国立大学協会 関東・甲信越支部会議 出席 (2/2) 《資料2-3》
- (9) 平成30年KIP会賀詞交換会 (公益財団法人神奈川産業振興センター) 出席, 挨拶 (2/2)
- (10) 国会議員面談「参議院 島村 大議員」「衆議院 鈴木馨祐議員, 義家弘介 議員」 (2/7)
- (11) YNU 21 サロン開催について 《資料2-4》
- (12) 教育学部長 指名  
・教育学部 杉山久仁子 教授
- (13) 経済学部長 指名  
・経済学部 永井圭二 教授

#### 2. 委員会報告

議長から, 委員会の開催状況について, 資料2-5のとおりである旨報告があった。

### 3. 部局等報告

各部局等から、次の事項について報告があった。

- (1) 理事（研究・評価担当）
  - ・海外遺伝資源を用いた研究を行う場合の名古屋議定書の対応について（資料3-1）
- (2) 理事（国際・地域・広報担当）
  - ・トロント大学人文科学部（カナダ）との大学間協定非更新について（資料3-2）
- (3) 副学長（教育担当）
  - ・平成30年度大学入試センター試験について（口頭）
  - ・平成30年度一般入試出願受付数について（資料3-3）
- (4) 教育学部長
  - ・次期教育学部評議員候補者選考について（池田敏和 教授，白取道博 教授）  
(口頭)
- (5) 経営学部長
  - ・経営学部研究生 一次審査の合否ミスについて（口頭）

◎以上の報告のうち、委員から、部局長報告の（2）について確認があった。

- ・トロント大学人文科学部との大学間協定非更新について、教育人間科学部人間文化課程では、2年前（平成27年）前まで交流実績があることから、事前連絡なく協定非更新することは現場が困る旨の意見があった。理事（国際・地域・広報担当）から、2008年に協定締結し2013年時点で協定更新していないこと、2013年に受入実績があるが、先方の強い意向により更新させてもらえず「協定なし」で受け入れたことの報告があるが、再度確認したい旨の発言があった。
- ・協定の管理に関して、非常に混乱しているように見えることから、整理してほしい旨の意見があった。

### Ⅲ 人事事項報告

議長（学長）から、資料3-4に基づき、先端科学高等研究院の人事事項について報告があった。

### Ⅳ その他報告

副学長（教育担当）から、前回の教育研究評議会で委員から意見があった「センター試験の検証」について、検証内容を整理し、個別学力試験にも活かせるよう、前期日程までには各部局に伝えることを考えている旨の発言後、指摘のあった点に関して報告があった。

### Ⅴ 審議事項

#### 1. 「附属図書館長候補者」について

議長（学長）から、附属図書館長候補者について、環境情報研究院から推薦のあった志田基与師教授としたい旨の提案があり、審議の結果、提案のとおり承認された。

#### 2. 「国立大学法人横浜国立大学先端科学高等研究院規則の一部を改正する規則（案）」について

理事（研究・評価担当）から、資料4及び4-1に基づき、平成30年4月1日からの先端科学高等研究院の再編に伴い、所要の改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

#### 3. 「横浜国立大学学術情報リポジトリ運営指針の一部改正」について

理事（研究・評価担当）から、資料5に基づき、横浜国立大学学術情報リポジトリシステムに関して、管理及び運用を現状に即した形に改正を行う旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4. 「横浜国立大学オープンアクセス方針の制定」について  
理事（研究・評価担当）から、資料6に基づき、本学の教育研究活動において作成された学術情報等を学内外に公開することを通じて、社会の負託に応え、世界の学術研究のさらなる発展に寄与することを目的として、オープンアクセスに関する方針を定めた旨の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
5. 「大学間学術交流協定等の締結」について  
理事（国際・地域・広報担当）から、資料7及び7-1～7-2に基づき、①キングモンクート工科大学トンブリ校（タイ）との大学間協定の締結②アンナ大学（インド）との大学間協定の締結について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
6. 「平成30年度新規開設副専攻プログラム」について  
副学長（教育担当）から、資料8-1～8-2に基づき、文部科学省に申請し採用になった、CAREERS IN JAPAN 留学生キャリア開発促進副専攻プログラム及びグローバルスタディーズ副専攻プログラムについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。
7. 「性同一性障がいを理由とした通称名の使用に関する配慮」について  
副学長（教育担当）から、資料9に基づき、経緯と概要及び本学で通称名の使用に関する配慮を行う場合の取扱いについて説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

## VI その他事項

1. 「平成30年度予算編成方針（案）」について  
議長（学長）から、予算管理規則第5条に基づき、意見を徴する旨説明後、理事（財務・施設担当）・事務局長 から、資料10-1～10-2 に基づき、平成30年度本学予算は第3期中期目標に従った中期計画及び年度計画に定める教育研究活動を推進するため、収入予算を見込み、これらを原資として支出予算を編成した基本方針について説明があり、質疑応答後、原案のとおり、役員会に付議することとした。  
なお、委員からつぎのとおり意見があった。
  - ・収入の欠損分（ロースクールの未充足分）に対して、大学としての対策が必要ではないかの意見があり、議長（学長）から、収入の欠損分については執行部で議論途中のため、教育研究評議会でも然るべき時に説明する旨の発言があった。
  - ・財政改革のロードマップの関係から、平成30年度か31年度に必ずショートが出ると聞いたが、その影響について確認があり、理事（財務・施設担当）・事務局長から、学長戦略経費にしわよせがいつている旨の発言があった。
  - ・間接経費について、見込額から大幅に超える収入があった場合、各部局の貢献度に応じた還元を考えていただきたい旨の意見があり、理事（財務・施設担当）・事務局長から、部局のアクションプランの貢献のインセンティブは、来年度は考えたいと思っていることの発言があった。
2. 「平成30年度学長戦略経費の配分方針（案）」について  
議長（学長）から、意見を徴する旨説明後、資料11-1～11-3に基づき、本学のさらなる教育研究活動の活性化や新たな強み・特色となる分野の醸成、学長を支援する体制の強化など、業務運営の改善を図るとともに学長がリーダーシップを発揮し、第3期ビジョンを達成するために、自己改革・新陳代謝の実行に資することを基本方針とした配分方針について説明があり、質疑応答後、原案のとおり、役員会に付議することとした。  
なお、委員からつぎのとおり意見があった。
  - ・事業完了後に作成する実施報告書の評価結果の公開時期について確認があり、議長（学長）から、従来公開していないため検討事項としたい旨の発言があった。

- 学長ビジョン21に併せて各部局毎の申請枠の上限を絞り込むのは、大学の多様性や教員の意欲をそぐので疑問に思っているという意見があり、議長（学長）から、多様性のもとである学部の教育研究、部局分経費はぎりぎりだという認識があるので、部局に前もって配る経費で出来るだけ配慮した。基盤的な部分などはしっかり部局分経費のほうでお願いしたい。部局からの申請型経費に関して精査をしていただき、本学の機能強化、教育研究の向上に資するよう配分したい。若手については、この2年研究促進という点で配慮しているつもりである旨の発言があった。
- 若手の研究活動支援事業のヒアリング、審査方法の具体的なやり方について意見があり、議長（学長）から、来年度改善を図りたい旨の発言があった。

以 上